

第38回麻布環境科学研究会 市民公開講座 2

環境が野生動物の行動を変える ～人が無意識に手がけた野生動物のリゾート～

江口 祐輔

農研機構西日本農研主席研究員、麻布大学客員教授

野生動物が人間の生活域に出没するニュースが多い。農作物を荒らしたり、住宅街を徘徊したり、家屋に侵入して屋根裏などに住み着いたり、ときには人に怪我を負わせることもある。

野生動物はなぜ人里に現れるのであろうか。野生動物の出没や農作物被害が増加した原因に森林伐採・植林による食物資源の減少や温暖化による個体数増加がしばしば挙げられる。もちろん、これらの要因がゼロだとは言わない。しかし、もっと身近なとこ

ろで野生動物の行動や生活は大きくは変化している。私たちは知らず知らずのうちに野生動物に最高の餌と住処を提供している。私たち人間の生活環境や社会の変化に対して、彼らの生き残り戦略が見事に適応している。また、私たち人間が野生動物を管理しようとする目線と野生動物が生き残るための目線が全く違うために、人と野生動物との共存がうまく進まない状況にある。今回はテレビや新聞ではなかなか報道されない真実を、映像と写真を使って紹介する。